

# こうち総文 in NAGASAKI

## 「龍馬と長崎コース」さるいて取材

# 龍馬さるく新聞

長崎南高新聞  
**PLUS**  
発行  
長崎南高校  
新聞部

## 龍馬像から亀山社中へ

長崎と縁が深い高知出身者といえは坂本龍馬と岩崎弥太郎が有名である。今回は、長崎で「こうち総文」の取材活動ができないかと考えて、「龍馬と長崎コース」という取材コースを設定して長崎南高校の近くにある龍馬ゆかりのスポットを求めてさるいてみた（長崎弁でいろいろなものを見て回って歩くことを「さるく」という）。

長崎は坂の町である。私たちが、長崎南高校を出発し、坂道を上がった下がりながら、約30分かけて歩き、風頭公園に到着した。その入り口にある小川ハタ店を訪れ、取材を行った。その後、公園内にある龍馬像を訪れた。



風頭公園の龍馬像。ここから長崎港が一望できる。長崎港には高知出身の岩崎弥太郎が創始した三菱重工の長崎造船所がある。

龍馬像は、市民有志が結

成した「龍馬の銅像建つうで会」により、平成元年に建立された。龍馬像のすぐ脇には、龍馬の名が全国に知られるきつかけとなった、司馬遼太郎の『龍馬がゆく』の文学碑が建てられている。龍馬像の近くに上野彦馬の墓がある。上野彦馬は、日本初の商業写真家であり、



亀山社中記念館

報道カメラマンとして草分け的存在。坂本龍馬の写真を撮影したことも知られている。私たちは、その後、狭い路地を下り、亀山社中記念館を訪れた。亀山社中記念館は、坂本龍馬の亀山社中の遺構として今に伝わる建物を、2009年8月1日から長崎市が整備・公開しているもの。亀山社中記念館では、コロナウィルス対策として、入館者を20人に制限していた。

記念館の受付担当の方に入館状況を尋ねると「緊急事態宣言が解除されても来館者は、通常の半分以下です。コロナの感染拡大前は

東京や大阪から訪れる人が多かったが、今は来館者の大部分は近隣の県の観光客です」という答えが返ってきた。

高知と同様、長崎でも龍馬はヒーローである。最近ではマスクを着けた龍馬像が「注意せよ！かんぜよ！」と高知訛りの長崎弁でコロナ対策を呼びかけている。（西宮・伊藤）

## 龍馬と長崎

坂本龍馬は1835年、土佐高知城下に生まれた。江戸で剣術や砲術等を修行した後、土佐勤王党に加盟し政治活動を始めた。1862年に土佐を脱退し、幕臣・勝海舟に師事して航海術を学ぶ。

1865年には長崎で日本初の商社とされる「亀山社中」（後の海援隊）を結成。最初に拠点をつ構えた地「亀山」と、仲間・結社を意味する「社中」を合わせて亀山社中と呼ばれた。航海技術を生かして物資の運搬や貿易の仲介を行った。

1867年4月、財政難により運営が苦しかった亀山社中は土佐藩と連携し、土佐藩を海援（ウミヨリタスケ）する「海援隊」となる。脱藩者をメンバーとして、運輸・開拓・投機を主目的に活動する商社である。



→長崎の地元企業インテックスが制作したコロナ対策啓発ポスター

龍馬は「薩長連合」や「大政奉還」といった大きな足跡を幕末の歴史に残したが、1867年11月、維新を前にして京都河原町に近江屋2階で暗殺され、生涯を閉じた。（森）

今回のコロナの影響について小川さんに聞くと「東京で予定されていたハタ揚げ大会や、長崎内のイベントはすべて中止になった。緊急事態宣言解除後も客はあまり来ない」と話した。（香川）

## 小川ハタ店を訪ねて 「ハタ」のルーツはインドネシア

風頭公園の入口近くに位置する小川ハタ店は長崎唯一のハタ店である。創業は明治40年。手作り一筋である。

「ハタ」というのは風や紙鳶のことを指し、長崎独特の呼び名だ。長崎の由来は、1600年頃まで遡る。店主の小川さんによると「ハタはオランダ船に乗っていたインドネシア系の人によってもたらされた言われている。現地の言葉である『パタ (PATANG)』を長崎の人が『ハタ』と聞き間違えたことで広まった。また、ハタの紋様は船



小川ハタ店の店主小川曉博さん

「ハタ」のルーツはインドネシア

今回のコロナの影響について小川さんに聞くと「東京で予定されていたハタ揚げ大会や、長崎内のイベントはすべて中止になった。緊急事態宣言解除後も客はあまり来ない」と話した。（香川）